改訂：2026 年 10 月 26 日

AWS 上の Cisco ISE インスタンスの互換性情報

AWS 上の Cisco ISE の互換性情報

このセクションでは、AWS 上の Cisco ISE に固有の互換性情報について説明します。Cisco ISE の一般的な互換性の詳細については、『Cisco Identity Services Engine Network Component Compatibility』を参照してください。

Cisco Catalyst Center の統合サポート

Cisco ISE を Cisco Catalyst Center リリース 2.2.1 以降のリリースに接続できます。

ロードバランサ統合のサポート

RADIUS および TACACS トラフィックのロードバランシングのために、AWS ネイティブ ネットワーク ロード バランサを Cisco ISE と統合できます。ただし、次の制限事項が適用されます。

- 認可変更（CoA）機能は、ネットワークロードバランサでクライアント IP の保存を有効にした場合にのみサポートされます。
- ネットワークロードバランサは送信元 IP アフィニティのみをサポートし、発信側ステーションの ID ベースのスティッキセッションをサポートしないため、不均等なロードバランシングが発生する可能性があります。
- ネットワークロードバランサは RADIUS ベースの正常性チェックをサポートしないため、ノードで RADIUS サービスがアクティブでない場合でも、トラフィックが Cisco ISE PSN に送信されることがあります。

TACACS トラフィックのロードバランシングのために、AWS ネイティブ ネットワーク ロード バランサを Cisco ISE と統合できます。ただし、ネットワークロードバランサは TACACS+ サービスに基づく正常性チェックをサポートしないため、ノードで TACACS サービスがアクティブでない場合でも、トラフィックが Cisco ISE PSN に送信されることがあります。

NIC ジャンボフレームのサポート

Cisco ISE はジャンボフレームをサポートしています。Cisco ISE の最大伝送ユニット（MTU）は 9,001 バイトですが、ネットワーク アクセス デバイスの MTU は通常 1,500 バイトです。Cisco ISE は、標準フレームとジャンボフレームの両方を問題なくサポートし、受信します。コンフィギュレーション モードで Cisco ISE CLI を使用して、Cisco ISE MTU を必要に応じて再設定できます。

Cisco ISE AWS インスタンスを作成するための前提条件

Amazon Web Services に Cisco ISE インスタンスを展開する前に、環境の準備と基礎知識の確認を済ませておいてください。これらの要件を確認することで、セットアッププロセスがスムーズに進み、展開における最適なパフォーマンスが確保されます。

設定の要件

以下を行う必要があります。

- AWS で VPC を設定します。
- 暗号化された EBS ボリュームを作成します。
- Cisco ISE インスタンスを設定する前に、AWS でセキュリティグループ、サブネット、キーペアを作成します。

Cisco ISE を AWS に正常に展開するには、AWS Identity and Access Management（IAM）ポリシーでキー管理サービス（KMS）リソースへのアクセスを許可する必要があります。Cisco ISE のセキュリティグループを設定する場合は、使用する Cisco ISE サービスのポートとプロトコルすべてのルールを作成する必要があります。Cisco ISE リリース 3.5 以降、IPv6 シングルスタック ネットワークに Cisco ISE AWS インスタンスを展開するには、AWS 仮想プライベートクラウド（VPC）内に IPv6 用に設定されたサブネットが必要です。

IP アドレスの前提条件

IP アドレスの前提条件は次のとおりです。

- ネットワーク インターフェイスの IPv6 アドレスを設定するには、サブネットには AWS で有効になっている IPv6 Classless Inter-Domain Routing（CIDR）プールが必要です。
- Cisco ISE CloudFormation テンプレートの [管理ネットワーク（Management Network）] フィールドに入力する IP アドレスは、AWS にネットワーク インターフェイス オブジェクトとして存在する IP アドレスであってはなりません。
- 展開では、静的 IP をプライベート IP として設定できます。ただし、スタティック IP は DNS 解決可能なホスト名で設定する必要があります。

AWS クラウドの概念への精通

以下に精通している必要があります。

- AWS サービスクォータの管理
- Amazon Elastic Compute Cloud（EC2）インスタンスや Amazon Elastic Block Store（EBS）ボリュームなどの AWS ソリューション、およびリージョン、アベイラビリティゾーン、セキュリティグループ、仮想プライベートクラウド（VPC）などの概念

参照

AWS ソリューションの詳細については、AWS のドキュメントを参照してください。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。